

国際コメ年北海道シンポジウム用台本（米ースをねらえ！）

美唄市立西美唄小学校 6 年

1. 「なぜ、米を輸入しているのか？」～S・Kさん

昨年度の学習「プロジェクト米X」の活動中、「日本は、お米が余っているにもかかわらず、なぜ輸入しているのだろうか？」という疑問が私達にわいてきました。その疑問を解決するため、今年4月、学校に「農林水産省北海道農政事務所」の方をお招きし、多くの質問をさせていただきました。皆さんは、毎年、アメリカや中国そしてタイなどの数カ国から輸入しているミニマムアクセスという輸入米を知っていますか？ その学習の際、今年は、国際コメ年だということを知り、「米ースをねらえ～身近なお米から世界を見つめよう」をテーマに私達の2年目の総合学習が始まりました。

2. 「国際コメ年とは？ インディカ品種の栽培に挑戦！」～N・Wさん

さて、その国際コメ年とは、いったい、何なのでしょう？ コメが世界の半数以上の人々の主食だということから、きがや栄養失調を解決するためのコメの役割というものについて、世界中が協力してもう一度確かめ合おうという年なのです。これは、国連が2年前に「コメは命」というテーマをもとに定めたもので、私達日本人にとっては、食料自給率の事や世界のきがを解決する方法を考える良い機会だと思います。

そこで、私達は、世界で生産されているお米の約9割をしめる「インディカ品種の稲の栽培」に挑戦しました。暖かい開発途上国で多く作られている稲のため、温度管理がとても重要で、土日や夏休みも休まず、毎日、ハウスの中で世話をしてきました。特に、J A美唄や北海道農業研究センターの方には、大変お世話になり、とても感謝しています。

3. 「世界のお米食べ比べ～生産国調べ」～H・Gさん

そのインディカ品種の稲を育てている間、私達は世界の9種類のお米を食べ比べしました。細長くてパサパサしているインディカ品種は、タイとベトナム、カンボジアとバングラデシュ産の4種類。日本で多く食べられているべちゃべちゃしたジャパニカ品種は、中国や台湾、そしてアメリカ産のあきたこまちやオーストラリア産のこしひかり。また、インディカ品種とジャパニカ品種の中間的なジャパニカ品種は、イタリア産。それぞれに特色があり、ここにいる大泉さんにも食べていただきました。また、その後、私達は、その稲を生産している国々の人口や面積、天候、文化、言葉、衣食住などの特色を調査し、新聞にまとめました。また、家庭科の時間に外国の食文化に触れる目的で、中国人の方をお招きし、餃子づくりにも挑戦しました。

4. 「世界がもし100人の村だったら～松田さん」～M・Kさん

私達は、「世界がもし100人の村だったら」という参加型ワークショップの学習をしました。その中では、50年後の世界の人口やその問題点、貧富の差が国々でとても激しいことなどを楽しみながら学びました。また、東京早稲田大学ボランティアセンターの国際協力活動家をお招きして、アフガニスタンで行ったボランティア活動の話などをうかがいました。「環境を守ることが国際協力につながる」とか「相手の立場に立って活動する」、そして「まずは、自分の身の回りから見直すことが大切」

という貴重なアドバイスをいただいた後、私達は、節電や節水、そして好き嫌いをしないなど、自分の毎日の生活を見直すことを心がけてきました。

5. 「元青年海外協力隊・ユニセフ職員」～D・Sさん

7月末には、元青年海外協力隊の方をお招きして、ケニアでの国際協力活動の様子を教えてくださいました。私達の中には、将来、青年海外協力隊を目指したいと思った人が多くいました。また、ケニアでの全くごみが出ない生活の話や学校や子どもたちについての話など、日本とは全然違う環境には、とても驚かされました。また、物やお金がたくさんあれば、幸せなのかと考えさせられました。

次に、ユニセフ北海道支部の方にも、学校に来ていただきました。そして、たった100円で、開発途上国の多くの人の命が救えることを学びました。「かわいそうだからではなく、同じ地球の仲間として助け合うことが大切」「国際協力の必要性を広めることが国際協力活動の第一歩」という言葉が私達の心に残っています。

6. 「ビデオ・メール」～S・Wさん

私達は、多くのビデオや資料などでも、開発途上国の現状について学んできました。水道が無く、きたない水を飲んで病気になったり、食べ物が十分になく、1日1回の食事で栄養失調になったり。お金をかせぐために、学校にも行けず、一日中、働かされている子どもたち。世界では、3～4秒に一人の子どもが死んでいる計算になります。ある貧しい国の平均寿命は、なんと37才。こうやって私達が発表している間にも、何人もの子どもたちが死ななくてもすむのに、死んでいっています。実は、日本は今から約50年前は、多くの国々に援助してもらっていたのですが、みなさんは知っていましたか？ また、現在は、開発途上国からたくさんの資源や食料などを輸入しています。日本は、たくさんの国々に助けられている国なのです。

カンボジアやネパール、そしてスリランカに住む日本人の方に、電子メールを利用して、開発途上国の様子を直接教えてくださいました。「一人で一万円よりも一人一円で一万人の募金」の大切さを、ぜひ皆さんにもわかっていただきたいと思います。

7. 「中米・国際協力フェスタ・JICA職員」～M・Oさん

10月の初めには、コスタリカ・ホンジュラス・パナマ・ドミニカ共和国・エルサルバドル・グアテマラ・ニカラグアから来た9名の外国人と実際にお会いして、それぞれの国の様子について教えてくださいました。その結果、外国とか開発途上国とか、ひとまとめで考えずに、いろいろな国があることを理解しなければならないことに気付きました。そして、自分たちが考えている「国際協力活動」について、アドバイスをいただくことができました。

その後、札幌で行われた「国際協力フェスタ」にも参加することができました。特にNGOの方から、「活動は一人では長続きしないので、多くの人で行うことが必要」「目標を持って、楽しみながら協力活動を行う」などの貴重なヒントをいただきました。

続いて、「自分たちが考えた国際協力活動」を具体的に進めていくため、JICA札幌の方に相談させていただいた中で、今年は、国際協力50周年だということも知りました。「目的をはっきりさせる」「日本のような国にしてあげることが目標ではない」など、自分たちの活動に生かせるお話をたくさんしていただき、助かりました。

8. 「自分たちの6つの国際協力活動」～E・Sさん

これらの学習から私達は、国際協力活動の必要性を強く感じ、開発途上国が必要としていること、価値ある活動について話し合った結果、実際に6つの活動に取り組むことにしました。まず、募金活動です。先日、美唄市内の2カ所で行い、今日の午前中には、札幌駅の地下街で積極的に行ってきました。このあとも、スピカ内で行いますので、ご協力をよろしくお願いします。2つ目は、古切手や使用済みカード・書き損じ葉書の収集です。多くの方やコンビニなどにもお願いをしています。もし、持っている方がいらっしゃいましたら、西美唄小まで送っていただければ、とてもうれしいです。3つ目は、バザーで集めたお金を募金しようと思っています。まずは、12月に学校内で実施したいと考えています。4つ目は、フェアトレードへの協力です。フェアトレードとは、開発途上国の物を正しい金額で売り買いすることです。この発表終了後、あちらでケニアの民芸品のお店を開きますので、ご来店をお待ちしています。5つ目は、カンボジアのNGOの要望を聞いて、活動するという事です。メールでやりとりをした結果、チャリティーのCDを買うということとあちらの子どもたちと文通をするということが決まりました。最後に、国際協力活動の必要性を多くの場でうったえることです。この発表もその1つですが、先日は、ラジオにも出演して強くアピールしてきました。皆さん、どうかよろしくご協力をお願いします。

9. 「今後の予定」～K・Dさん

最後に、これからの私達の活動予定を発表します。まずは、12月と2月に、フィリピンの子どもたちと文化交流を目的としたTV会議を行います。国際協力活動には、日本と外国の文化をしっかりと理解することが必要だからです。それから、私と渋谷さんが、来年の春休みに韓国へ行って、子ども同士の交流を深めてくる予定です。韓国の人には、あまり良く思われていない日本人だそうですが、それを少しでも解決するため、友達をたくさん作ってこようと思っています。また、台風などの被害にあいながらも、私達がなんとか収穫したインディカ品種の種もみを、国際協力活動に興味がある全国の学校に配布して、栽培してもらいたいと考えています。そして、国際協力の芽を育て、その必要性を広めていってくれることを願っています。興味がある学校の先生は、ぜひご連絡下さい。今後も、私達は、このように国際協力活動を一生懸命頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。これで、「米ースをねらえ」の発表を終わります。ありがとうございました。